

出前授業・模擬選挙	他の機関(税務署)と連携
小学生等	中学生

模擬議会・議員との交流	若者議会・こども議会	座談会等
高校生	大学生・短大生・高専生	特別支援学校生

大学・若者グループ等との交流	【参考】 学校・民間団体が主体の取組
若者層 (10～20代)	

## ⑩高島市（滋賀県）（人口46,394人）※令和5年1月1日現在

# 租税教室の実施拡大を活用した模擬選挙のコラボ授業

### ■取組の概要

- 令和元年と令和5年に租税教室を実施する税務署から声がかかり、模擬選挙とのコラボ授業を実施。
- 年度ごとに協力の程度は異なるものの、模擬選挙という体験型の取組があることが連携の声かけに繋がっていると思われる。



### 実施概要

実施年度	令和元年度、令和5年度（※令和2～4年度は新型コロナの影響等から実施なし。）
対象者	市内の中学校2校（中学3年生）
参加者数	80名程度（令和5年度）
事業規模（予算）	なし

### ■実施の経緯

#### <取組を開始するに至った経緯>

- 令和元年度は租税教室を実施する税務署より声がかかり、コラボ授業を実施し、選挙に関する講義を行った。
- 令和5年度は「模擬選挙の機材を貸してほしい」との依頼が税務署からあり、調整の上、選挙の仕組みについて説明した。

### ■実施の体制

#### <庁内の実施体制>

- 令和元年度は主担当1名と兼務1名の2名で当日対応。
- 令和5年度は主担当1名で対応。

#### <外部との連携体制>

- 令和元年度は、今津税務署、大津税務署、今津納税協会。
- 令和5年度は、今津税務署、近畿税理士会今津支部。

### ■取組の効果・成果

- 令和元年度は取組状況をプレスリリースしたことで、複数メディアの取材があり、また、『広報たかしま3月号（令和2年）』に掲載をしたことで、庁内職員からも反響があった。
- 生徒からは「1票の大切さがよくわかったので、18歳になったら必ず投票に行き、新しい日本をつかっていきたい」との感想が寄せられた。



#### <これから取組を始める団体へのメッセージ>

模擬選挙一つとってもいろいろなやり方がある。選挙という切り口では生徒にとって難しい面もあるが、税という観点であれば、生徒たちがもう少し身近に感じられるため、税務署等いろいろなところを巻き込みながら実施することをおすすめしたい。

★より詳しい情報はこちらへ

【広報 たかしま 3月号（令和2年）】

<https://www.city.takashima.lg.jp/soshiki/seisakubu/kikakukohoka/10/3/3/2/16/1891.html>



## ■取組のステップとポイント（主に令和元年度）

### ①事前準備

#### 【実施2か月前】税務署から実施の声がけ

- ・市内中学校で租税教室の実施を予定していた税務署から市選管へ租税教室とのコラボの声がけ。（税理士会から、税務署に対し、税と選挙を絡める等、生徒参加型の取組を追加してはどうかというアイデアが提示されたことがきっかけ。）

#### 【実施1か月前】税務署と打合せ

- ・学校、税務署、市選管の3者で打合せを実施。コラボ授業実施にあたって、授業の内容、当日のスケジュール、役割分担、準備物の確認、広報の方法といった運営方法を確認し、決定した。

#### 【実施までに】選挙備品の準備、資料作成

- ・選挙備品のうち、投票用紙は県選管に依頼。
- ・講義資料は作成後、税務署側に提供。



講義資料

- ・公民館ホールで実施。開催の1時間前から準備開始。全体は授業2コマ分。



講座の様子

#### <当日の流れ>

1. 講座  
税について税務署から、選挙について選管から説明。
2. 候補者演説、模擬選挙  
教員が候補者役となり演説をする。候補者役を多く設定する場合は税務署職員もその役を担う。  
選管は模擬選挙の受付、投票用紙の交付等を行う。
3. 出口調査
4. 開票



模擬選挙の様子

### ②取組実施

### ③実施後

- ・プレスリリースしたことで、地元テレビ局も含め複数のメディアから取材があった。
- ・また、『広報たかしま』にも掲載している。

#### 【ポイント】

- ・県の資料を基に作成したが、選挙の内容が中心でやや難しい部分もあったため、今後の税の使い道に関して、選挙で決まる面があるというところを強調。さらに税と選挙の関連性がわかるように修正。

もし、誰かの言うとおりに投票したら...

自分の思いと違うお金の使われ方をするかも...



お金がムダ使いされて、本当にして欲しいことがしてもらえない...かも？

講義資料

- ・選管と学校との関係性継続については、生徒主体の取組が学校の文化のように継続している点が挙げられる。例えば中学校の生徒会の選挙で、本物の記載台や投票箱を使っている等、生徒会自身の取組が学校と選管をつなぐ取組として連綿と続いている。

#### 【ポイント】

- ・事前の資料だけでなく、当日も主催者が、自身の意見を伝えるために、選挙に行くことが重要であることを伝達している。
- ・大事なことを決める、という側面と同時に誰でも参加することができるという「気軽さ」も感じてもらいたいと考えている。

#### 【ポイント】

- ・租税教室は市内すべての小中学校で実施（令和5年度）しており、また、各学校の教員からは生徒参加型の要望が多いと聞いているため、税務署との連携を強化し実施校の拡大を図りたい。